

令和7年度
学校評価報告書

四天王寺東高等学校
四天王寺東中学校

目 次

1. めざす学校像	2
2. 中期的目標	2
【自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの評価】	3
* 自己評価アンケートの結果と分析	
結果	3
分析	4
1 評価ポイントによる分析	
2 設問ごとの分析と具体的な改善方法	
* 学校関係者評価委員会からの評価	7
3. 本年度の取り組み内容及び自己評価	8
資料	
① 過去年度との比較資料	9
② 集計結果を分析した資料	10

1. めざす学校像

- ・本校は、聖徳太子が仏教に帰依し、設置された敬田院の精神を礎とした建学の精神と学園訓を受け継ぎ、慈悲の心で人々に寄り添える人材を育成します。
- ・本校の教育により、より高い知識・技能を身に付け、社会に貢献できる人材を育成します。

- 目標
1. 聖徳太子の和のご精神を涵養し、豊かな情操を備えた人間を育成する。
 2. 探究活動やICT教育に取り組み、学習意欲の高揚と学力の向上を目指す。
 3. 自己の進路を考え、自己実現を図る進路指導を行う。
 4. 規範意識を高め、調和の取れた人物を育成する。

2. 中期的目標

1. 聖徳太子の和のご精神を涵養し、豊かな情操を備えた人間を育成する。
 1. 生徒会活動が活発に行われている。
 2. 部活動が活発に行われている。
2. 探究活動やICT教育に取り組み、学習意欲の高揚と学力の向上を目指す。
 1. 家庭学習時間の確保に向けた取り組みが行われている。
 2. 公開授業や研究授業など指導の内容・方法の工夫改善に向けた取り組みが、学校全体で行われている。
3. 自己の進路を考え、自己実現を図る進路指導を行う。
 1. 進路説明会は、適切に計画・実施されている。
 2. 定期的な懇談・面談などを通じて適切な進路指導がなされている。
4. 規範意識を高め、調和の取れた人物を育成する。
 1. 遅刻・欠席を少なくさせている。
 2. 挨拶をすることや時間を守る指導などを通して、基本的な生活習慣の確立に努めている。
5. 学校運営について
 1. 職員の生徒募集の意識高揚が図られている。
 2. 学校のホームページを活用し、教育活動や生徒の学校生活について情報公開している。
 3. 教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

*自己評価アンケートの結果と分析（令和8年1月実施）

番号	設 問	結果(%)				番号
		1	2	3	4	
目標1	1 校外活動(修学旅行・校外学習・スキー学舎等)が適切に計画・実施されている	40	48	12	0	1
	2 生徒会活動が活発に行われている	37	48	15	0	2
	3 部活動が活発に行われている	25	62	13	0	3
	4 人権教育が適切に計画・実施されている	27	53	14	6	4
	5 いじめに対する基本方針に沿い、その取組が適切に実施されている	42	48	8	2	5
	6 仏教教育・仏教行事が適切に計画・実施されている	26	40	21	13	6
目標2	7 教育課程は学習指導要領に沿い、かつ生徒や学校の実態等を踏まえたものになっている	35	47	16	2	7
	8 効果的で円滑な学習活動を進めるために適切な時間割を編成している	31	58	10	2	8
	9 年間を通じた教育計画を各教科別に立てている	37	53	10	0	9
	10 公開授業や研究授業など指導の内容・方法の工夫改善に向けた取り組みが、学校全体で行われている	25	56	12	8	10
	11 教科内で、授業内容の改善・向上に向けた話し合いを行っている	35	50	10	6	11
	12 学習状況に応じて生徒を支援する体制が整っている	27	54	17	2	12
	13 家庭学習時間の確保に向けた取組を行っている	15	62	21	2	13
	14 授業で、探究活動を実践したり、ICT（情報通信技術）を活用している	31	58	10	2	14
目標3	15 クラス編成や講習など進路実現に向けた学力向上策が充実している	28	48	22	2	15
	16 生徒の進路選択に役立つように状況に応じた必要な情報を提供している	48	52	0	0	16
	17 進路説明会は、適切に計画・実施されている	49	49	2	0	17
	18 定期的な懇談・面談などを通じて適切な進路指導がなされている	55	45	0	0	18
	19 実力考査・外部模試等を進路指導に適切に活用している	37	55	6	2	19
目標4	20 校内外の指導等、問題行動を未然に防ぐ教育を適切に行っている	25	49	22	4	20
	21 生徒の問題に対して情報を共有し、組織的に対応できている	32	44	22	2	21
	22 社会のルールマナーを順守させている	29	53	16	2	22
	23 服装規定を守らせている	33	51	12	4	23
	24 生徒への指導について、保護者への報告が適切になされている	55	43	0	2	24
	25 遅刻・欠席を少なくさせている	38	44	15	2	25
	26 挨拶をすることや時間を守る指導などを通して、基本的な生活習慣の確立に努めている	41	47	10	2	26
	27 環境美化や清掃に対する意識の向上を図っている	40	50	10	0	27
	28 年間を通して生徒自らに健康観察や健康の保持増進できる能力を養わせている	35	51	14	0	28
学校運営	29 職員会議をはじめ各種会議が有効かつ効率的に機能している	29	45	22	4	29
	30 教員間・教科間の相互理解がなされ、連携して教育活動が行われている	24	52	22	2	30
	31 学校のホームページを活用し、教育活動や生徒の学校生活について情報公開している	26	60	14	0	31
	32 研修・研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある	16	62	22	0	32
	33 教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている	23	54	19	4	33
	34 防災訓練の実施等、防災に対する意識の高揚を図っている	51	47	2	0	34
	35 入試説明会などを通して、情報の発信が適切に計画・実施されている	46	42	8	4	35
	36 ホームページで入試関連行事などの情報発信が適切に計画・実施されている	51	43	4	2	36
	37 個人情報保護の指針が守られ、個人情報が適切に扱われている	49	49	2	0	37
	38 職員の生徒募集の意識高揚が図られている	24	57	14	6	38

*結果の評価：1（よくあてはまる）、2（ややあてはまる）、3（あまりあてはまらない）、4（まったくあてはまらない）

分析		
1	前年度、評価ポイント（詳細P.9参照）が80%を超える項目が18項目あったが、今年度80%を超えた項目は16項目（新たに80%を超えた項目は3項目[設問2・27・28]前年度80%超え今年度80%に満たない項目は5項目[設問8・11・14・25・31]）となり、前年度より2項目減少した。また、75%以下の改善の余地がある項目（詳細P.10参照）は、前年度の2項目から9項目と増加している。全体的には評価ポイントが減少している。改善の必要な項目もあり、さらなる取り組みが必要である。	
2	設問ごとの分析と具体的な改善方法	
	番号 分析	具体的な改善方法
目標1	1 前年度より下がっているが、概ね行われていると考えられる。	校外学習の内容は各学年で趣向を凝らし、企画・実施されているが、以前より校外学習の回数に関しては少ないという意見があった。来年度は全学年で春季校外学習が実施される。
	2 全体の評価ポイントが79.5であるのに対し、80.3と高い水準にある。また、前年度比較では全体が1.5%減少している中で、3.8%増加している。よって「生徒会活動が活発に行われている」という項目については、改善傾向にあることがうかがえる。	生徒会活動の内容や成果を放送やHPで校内・校外に積極的に発信し、生徒・教職員が活動状況を把握できるようにする。また、生徒会と各種委員会・学級活動との連携を強め、生徒が主体的に企画・提案・運営できる場を増やすことで、学校全体の活性化につなげる。
	3 全体の評価ポイントが79.5であるのに対し、77.8とやや低い水準にある。しかし、前年度比較では全体が1.5%減少している中で、1.3%とわずかながら増加している。したがって、「部活動が活発に行われている」という項目については、改善傾向が見られる。	できる限り専門性を生かした担当ができることが望ましい。大会・発表会・校内での結果報告などを積極的に行い、校内・校外に情報発信していくことで、意欲向上につながると思う。また体育祭や文化祭などの学校行事において、部活動の発表の場や活動できる機会を設けることで、部活動の活性化につながると考えられる。
	4 0.5ポイント下がったが75.5はそれほど低いとはいえず、前年の76.0とほぼ同じなのでこの辺りで安定していると考えられる。	私学人権教育研究会での他校の実践報告などを参考に、本校でも新しい取り組みを取り入れようと考えている。ただし、現在のところ年間行事に各部署から組み入れたい行事等の案が多くあり、なかなか難しいところがある。
	5 0.9ポイントわずかに上昇しているおり、また82.5ポイントと高く評価されているのではないかと。	本校の基本方針に沿って、適切に実施されていると考えてよい。今後も、時代の変化に応じて適切に対応していこうと考えている。
	6 前年度77.0ポイントから今年度69.8に下がっている。学級・学年運営とHRに礼拝やその他仏教行事をこなすことに、時間的・精神的な負担を感じる先生方が増えてきている。また、担任または学年主体で教育を行いたいという気持ちのあらわれかと推察する。	授業などで礼拝行事などについて生徒全体に聞くと、自分の成長の為になる、是非続けてほしいと考える者が相当多くいる。令和7年度卒業生対象の学校評価アンケート「仏教教育・仏教行事が、適切に実施されている」という項目では高校では87.0%、中学では90.3%の生徒が肯定評価であった。教員のさまざまな意見も真摯に受け止め、学校が推進する仏教教育の基盤に則って、少しでも充実した仏教教育ができるように努めたい。
目標2	7 前年度と比較して0.2ポイント減であるが、ほぼ前年度通りである。	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度から始まる新しい時間割やコース編成が、本当に生徒一人ひとりの進路や学習状況に合っているかを、全員で丁寧に見守っていく。 ・一部の教員や生徒が「自分たちに合っていない」と感じることはないよう、定期的にアンケートや話し合いを行い、必要があれば柔軟に内容を調整していく。 ・学校全体の大きな変化を、教職員全員が同じ方向を向いて進めていけるよう、相互理解と情報共有を大切にす。
	8 前年度84.0から4.7ポイント低下した。回答の多くは肯定的であるが、「よくあてはまる」が十分に伸びておらず、時間割編成に対して一部の教職員が課題を感じていることがうかがえる。特に、授業の配置バランス、行事等に伴う変更対応、教科間連携を含めた編成の工夫に改善の余地があると考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員個別の要望を全て受け入れるのではなく、管理職や担当係で協議し、基準を設けることで、授業配置の偏りを是正していく。 ・特に非常勤講師の出勤条件緩和を働きかけ、特定時間帯への授業集中を抑える。 ・学期ごとに運用課題を点検・検証する仕組みを整え、生徒の学習負担と教員の運営効率性が最適化された、バランスの良い時間割編成を目指す。
	9 前年度と比較して、3.8ポイント減となっている。学期ごとの振り返りができていないことや、臨時休業等で授業数と同じコースでもクラスごとに異なるため計画通りいかないことが原因と思われる。	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいカリキュラムを確実に進めるために、各教科で「余裕を持たせた年間計画」を立て、行事や急な変更があっても慌てないよう、ロイロノートなどのデジタルツールを使って進み具合を共有し、自習時間も有効に使える仕組みを作っていく。 ・また、文系・理系といったコースごとの進路希望と授業内容がズレないように、教科の枠を越えて話し合う時間をしっかり確保し、組織として生徒を支える体制を整えていく。
	10 前年度と比較して、5ポイント減となっている。自分自身の教科研究に専念したいが、いろいろな仕事が重なり十分な時間が取れていないと思われる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の教科研究時間を捻出するため、校務分掌の徹底的な見直しとスリム化を進める。 ・大学入試トレンドや教材研究が自然と話題に上る「授業第一主義」の職員室環境を醸成する。 ・「全専任教員による研究授業と研究討議」を年間計画に組み込み、若手からベテランまでが技術を伝承し合う文化を再構築する。 ・形式的な見学を脱し、外部の「駿台教育セミナー」等への派遣支援や、他校の研究授業への参加を積極的に奨励する。
	11 前年度と比較して、2.7ポイント減となっている。教科以外の仕事が多く、教科会議を頻繁に行えない現状は一部あると思われる。	<ul style="list-style-type: none"> ・校務の多忙化により形骸化しつつある教科会議を、授業改善のための実質的な場へと再生していく。 ・教務部からの定期的な働きかけや、コース別指導の好事例を共有する機会を設けることで、教員間の意思疎通を活性化させる。 ・教科研究に集中できるよう分掌業務の見直しを並行して行い、物理的な時間を確保する。 ・多様なコース特性に合わせた教材開発や指導法の検討を教科の枠組みで組織的に進め、教育の質の持続的向上を図る。

番号	分析	具体的な改善方法
目標2	12 評価ポイントが-1.1とわずかに下降しているが、76.4と評価は決して悪くはない。	職員室前で質問しやすい環境整備（ホワイトボード設置や机・椅子配置）が必要であり、質問機会の増加は生徒・教員双方の意識向上につながると思われる。また、現状は教室対応に偏っている。加えて、補習や学習支援策が十分とは言えず、進路指導部を中心とした組織的な支援体制の構築と学校全体での計画立案を行う。
	13 評価ポイントは-2.9下がり、72.6となった。改善は非常に難しいと思われるが、具体的な改善策を検討する必要がある。	家庭学習の実態を定期的に調査し、フィードバックする仕組みが必要である。学習時間の目標設定や保護者への共有も重要。一方で、課題の量や質に関して教科間の連携不足が課題となっている。宿題の少なさが学習習慣の定着を妨げている可能性もあり、主体的に学ぶ力を育てる指導や学習計画支援を行う。
	14 前年度と比較して、2.2ポイント減となっている。教科の特性があり、探究活動が難しい部分もある。	・「研究時間の捻出」のための業務整理：探究活動の準備には時間が必要なため、会議時間の短縮や、これまでの校務分掌（係の仕事）のなかで「削れる作業」を徹底して見直し、授業研究に充てられる時間を物理的に生み出していく。 ・教科特性に合わせた活用：全ての授業で一律にICTを使うのではなく、各教科の先生方が「ここなら効果的だ」と思えるポイントを大切にします。教務部が主体となって、教科の枠を超えた「困りごと相談会」を定期的に関き、一人で抱え込まない雰囲気を作っていく。
目標3	15 評価ポイントは-1.5とわずかに下降しているが、75.5と、評価は低くないと考える。	講習制度や大学連携講座は学習意欲の向上に効果的であり、継続・制度化が望まれる。一方で、コース別の進路目標に対する指導が統一されておらず、成果が上がりにくい状況である。カリキュラムの整備不足や教員間の方針のばらつきも課題であり、進路指導部を中心とした組織的な方針確立と学力向上への取り組みが必要である。
	16 評価ポイントが88.0から87.0へとわずかに下がったが、評価は高く安定しており、現状でよいと評価されていると捉えてよい。	外部サービスを活用した模試結果の可視化は、生徒の学力推移の把握や指導に有効であり、面談資料としても活用しやすい。教材や試験の見直しにも役立つため、現在の取り組みを継続することが望ましい。
	17 前年度より-0.7と下降したが前年度の-2.7よりは低下度は抑えられたと考えられる。86.8とまだ高いので、適切に実施されていると考えられている。	進路説明の時期や回数は適切だが、生徒が主体的に受け止めていない点が課題である。説明方法の工夫や動機付けの強化が必要である。
目標4	18 評価ポイントは前年度88.5から+0.2とわずかに高くなった。88.7と評価は高く安定している。	担任による面談や指導が丁寧に行われており、その成果は数値にも表れている。情報共有も適切であり、現行の進路指導は概ね良好と評価されるため、今後もこの体制を維持・継続することが重要である。
	19 評価ポイントは前々年度+2.1で81.9、今年度は変わらず81.9と高い評価で安定している。	外部模試はデータの信頼性が高く、進路指導に有効であるため継続が望まれる。ただし、模試後の振り返りや得点向上に向けた具体的な指導が不足している。学年間での取り組みの差もあるため、効果的な実践を共有し、全体で活用していく必要がある。
目標4	20 前年度に比べて4ポイント減	学校全体で一貫した生徒指導をする空気が重要である。教員研修を行うことで、指導力の向上、時代に即した指導方法を身につけながら、生徒の多様性に対応をしていく。また、指導方針を教員間で共有しながら、教員全体で取り組む意識を高めていきたい。
	21 前年度に比べて微減	個人情報の問題があるので、情報共有に関しては難しい側面がある。
	22 前年度に比べて微減	年に1度程度、生徒指導HRとして、マナー講座（講師を招く）を実施する。そして、何事もまずは教員が範を見せる姿勢を見せたい。
	23 前年度と変化なし	著しい服装違反は見られない。継続して指導を続けていきたい。
	24 前年度に比べて2ポイント減	担任や学年より、日頃から気になることや日々の様子などを保護者に連絡をしている。問題になることだけでなく、良かった報告も保護者に連絡することも必要だと考える。引き続き継続して実施していきたい。
	25 前年度に比べて2ポイント減	評価ポイントは減少しているが、令和6年度に比べて中学、高校共に遅刻者数・欠席者数が減少している。令和5年度大幅に減少したが、さらに今年度減少できたことは良かった。引き続き、保護者と連携を取りながら、遅刻・欠席を減らしていきたい。
	26 前年度に比べて2ポイント減	先生方の朝の立ち番や風紀委員会の挨拶運動を今年度も実施している。またガレリア前の合唱一礼の指導についても、仏教委員会の生徒とともに実施している。来年度も継続して実施していきたい。
	27 生徒に対する注意喚起は担任の先生を通じてできていると思う。	今後は注意喚起だけではなく、生徒自身が自ら環境を整えることの重要性を理解し、率先して清掃に努めるように働きかけたい。生徒会と連携して生徒の意識改革を図りたい。
28 前年度より1.5ポイント増加	中高生である以上は自分自身での体調管理が重要となる。そのため、自分自身の体調と向き合うことができるよう、様々な場面で自己決定を促す選択肢を生徒に与えるようにした。引き続き、健康を保持増進できるような心がけていきたい。	

番号	分析	具体的な改善方法	
学校運営	29	評価1が増加したが、評価3も増加したので、昨年度と同じ評価であった。	今後も、各分掌、各教科、学年会議が、単に報告会でなく、前向きな、建設的な、誰もが意見を出し合える環境を作っていく。
	30	評価2が減少し、評価3が増加したので、昨年度よりも評価が下がった。	各部署で情報の共有を積極的にしてもらう。
	31	評価1が減少し、評価3が増加したので、昨年度よりも評価が下がった。	令和7年度にホームページがリニューアルされ、「東の日常」の更新件数が増えたが、各クラブの更新件数が増えなかった。今後も、積極的に情報を公開してもらうように声掛けをしていく。
	32	評価2が減少し、評価3が増加したので、昨年度よりも評価が下がった。	各教科・分掌での情報共有は、各自ができる方法で、他の教員に共有してもらうことを呼びかけていく。
	33	評価1と評価2の肯定評価が減少したので、昨年度よりもやや評価が下がった。	時間のない中で、研修に参加してもらってるが、研修の情報をより発信していく。
	34	評価1が増加したので、昨年度よりも評価が上がった。	年々、避難に要する時間が短くなってきているが、今後も様々な場面を想定して訓練をしていく。
	35	評価ポイントでは、昨年度より2.8ポイント減少している。高校入試の志願者、入学者が減るとポイントが下がる。情報発信はとても大切です。しかし、発信の状況のみで受験生・入学者が増減するのではないことを理解してほしい。	今年度行ったイベントについては、実施後アンケートにあるようにおおむね満足していただけるものであった。ただ、現状に満足せず、より多くの方にイベントに参加してもらえるよう、考えていきたい。また、教職員全員が生徒募集にもっと関心を持ち、なぜ高校入試においては志願者・入学者が減ったのか真剣に考えてほしい。
	36	評価ポイントでは、昨年度より1.5ポイント減少しているものの、ホームページの改訂を行い、85.8ポイントであることから、大きくは下がっていない。	ホームページをリニューアルしたこともあり、また入学対策イベントにおいてもホームページをみて本校のイベントに参加したくなったという方も一定数いることから、今後も継続して適切に計画・実施していきたい。またSNSを利用していけるような環境作りも大切だと考えている。
	37	評価1が減少したので、昨年度よりも評価が下がった。	個人情報の大切さについて、常に注意を促していく。
38	評価1が減少したので、昨年度よりも評価が下がった。	生徒募集の大切さについて、常に教職員に話していくが、全教員の協力力なしには成り立っていない。	

* 学校関係者評価委員会からの評価（令和8年3月12日実施の会議とアンケートの内容をまとめた）

目標 1	<p>[設問1] 校外活動は適切に計画・実施してほしい。</p> <p>[設問2] 生徒会活動が活発に行われているのはよい。</p> <p>[設問4] 生徒は仲がいい。今の時代だから、上下の関係がフレンドリーで、校風に沿っていい感じだ。仏教教育を受けているので、心が整っている。高校や中学と一緒に活動しているのがよい。</p> <p>[設問6] 仏教とは何かと言う学問的なことをもっと知りたい。学問として面白く伝えてほしい。意味も分からずに修行ばかりさせられていては、だんだんわからなくなってくる。根本的な教えをわかりやすく教えてほしい。楽しく、面白い授業なら身近に感じる。</p>
目標 2	<p>[設問7] 2学期制に先生方はついていけるのか、不安な保護者が多い。土日の生活など、受験期に入る子供を持つと不安。課題だけ出されるのではと不安。生徒は部活動も引退し、推薦でいいと考える。自分の時間をどう使うかが高校3年生の保護者が不安に思う。基盤ができていない生徒は対応できにくい。フォローをしてほしい。学びもたいせつだが自己管理できる能力が大切だ。変わる体制に対しての指導が大事だと思う。</p> <p>[設問10] 先生方に時間的な余裕がない。公開授業は、他校と比較したいので、保護者はもう少し足を運びたい。参観は時間の幅があるのでよい。いきやすいが、少ない人数の時は入り辛い。期間は短くてもよい。</p> <p>[設問12] 英検対策はありがたい。誰がどういうところを向いているのかを見ていてくれるのはありがたい。</p> <p>[全項目] すべての項目で評価ポイントが下がっているのよくない。すべての教員が意識して携わってほしい。</p>
目標 3	<p>[設問16] 進路選択に必要な情報はしっかり提供してほしい。</p> <p>[設問17] 進路指導はユーチューブで配信されているが、子供の後ろで見たい。直接相談できる時間が欲しい。保護者が進路説明会に参加し、直接、先生と生徒の意見を生で聞きたい。</p> <p>[設問18] 適切に行われているのでよい。</p>
目標 4	<p>[設問20] 問題行動の設問に関しては、身近で起こっていないのでわからない。SNS問題はむずかしい。生徒は正しい情報とまちがった情報の区別がつかない。ユーチューブは、一度興味を持ったものは、ずっとそれだけを見て、それが正しいと思ってしまう。見るなどと言っても見る。家庭での指導も難しい。その人が言っているから正しいと思ってしまう。怖い。心配だ。中学生は楽しいものしか見ないが、高校生はいろいろなものを見ているので怖い。危険なアプリが増えているので、毎年全学年にそのような講話をしてほしい。どういうことが降りかかり、責任がかかるか、怖さをおおげさに伝えたほうがよい。家庭内であれば、何かを見ていると、どう思うかすぐ聞く。情報の選択がむずかしい。若い子は感化されやすい。学校で同じ教育を受けている子は、間違っていれば正してくれる。家庭のみならず学校でもしっかりとお願いしたい。</p> <p>[設問28] 保健室はあいてる時とそうでないといがある。放課後はあいていない。</p>
学校運営	<p>[設問30] 教員全体を見ているとぼらぼら感があり、世代の違いはとても大変そうだ。生徒と立場に近い先生はいいのだが、近すぎて重みがない。新しい時代なので、生徒たちから新しいものを取り入れなければならないし、昔ながらの教育もある。指導が先生によってまちまちで一貫性がない。熱心だが、自己主張が強く妥協がない。生徒を育てないといけないし、言い過ぎてはいけないしやりにくい時代だと思う。</p> <p>[設問32] 参加した成果を共有し、授業に活用してほしい。</p>

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価				
中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
1 聖徳太子の和やかな精神を涵養し、豊かな人間を育成する。	令和6年度の自己評価アンケートで評価ポイントが上昇したが、更に活発に活動をさせたい 「生徒会活動が活発に行われている」を今年度の重点目標とする。	ア. 生徒会活動の広報を積極的に行う。 1. 生徒会執行部の活動を、学期ごとの始業式や終業式で報告する。 2. 各委員会から全校生徒に対して、啓蒙活動の呼びかけを合同朝礼を通じて行う。 イ. 生徒が主体的に生徒会活動を運営できるようにする。 1. 生徒会役員執行部が定期的に集まり、活動内容を検討する。 2. 生徒総会を開催し、生徒の自治意識を向上させる。	・教員自己評価アンケートのパーセント。 (80ポイント以上)	ア. 全体の評価ポイントが79.5であるのに対し、80.3と高い水準にある。また、前年度比較では全体が1.5%減少しているなかで、3.8%増加している。よって「生徒会活動が活発に行われている」という項目については、改善傾向にあることがうかがえる。 1. 活動内容を始業式や終業式で報告や啓蒙をすることができた。 2. 活動内容や成果を放送やHPで校内・校外に積極的に発信し、生徒・教職員が活動状況を把握できるようにした。 イ. 生徒会と各種委員会・学級活動と連携し、生徒が主体的に企画・提案・運営できる機会が増えた。 1. 定期的に執行部が集まり、文化祭の準備以外にも清掃活動の企画や未来提案箱の設置の提案等、生徒主体とした運営ができた。 2. 今年度開校以来初めて生徒総会を開催し、各委員会から取り組みや今後の目標が発表された。今後さらに継続しながらも更に内容のある総会にしていきたい。(○)
2 探究活動やICT教育の高揚と学力の向上を目指す。	令和6年度の自己評価アンケートで、昨年度から1.0%評価ポイントが低くなり、75.5%と評価ポイントが低い 「家庭学習時間の確保に向けた取組を行っている」を今年度の重点目標とする。	ア. 生徒に適切な週末課題を与える 1. 国数英の3教科を中心とする。(教科のバランスを考える) 2. それぞれの生徒に相応しいレベルが選択できるよう、個別最適化を可能とする課題を目指す。 3. 国数英の各教科で課題の与え方を工夫する。 イ. キャリア教育で学習の動機づけをおこなう。 ウ. 高校生にマイナビの進路教材を学年に応じて与えていく。	・教員自己評価アンケートのパーセント。 (80ポイント以上) ・教員取り組みアンケートも参考にする。	ア. 国数英の各教科の先生方に呼びかけはしたものの、周知が行き届かなかったと思われる。取り組みアンケートの結果は、「国数英で課題・宿題を与えた」に対して、75.1%の肯定評価であり、多くの教員がある程度、生徒には課題などは与えていた。また、「国数英で週末課題を与えたか」の問いに対しては、70.8%の肯定評価となった。考察としては、課題などは与えたが、生徒自身が主体的にそれを捉え、家庭学習でいかせていないという現実があるため、自己評価アンケートの結果が満足のいく結果ではなかったと考えられる。 イ. キャリア教育や進路説明会などで、学習の動機づけとなるような指導は行ったが、実際に学習につながるまでには至らなかった。 ウ. マイナビの進路教材を適宜使うように促したが、使った学年とそうでない学年があった。結果として、自己評価アンケートでのポイントは、72.6であり、目標の80ポイントには届かなかった。次年度については、学習アプリ、キャリア教育用のアプリ、探究学習の強化などを計画し、学習の動機づけの向上に努め、この課題に取り組んでいく。(△)
5 学校運営について。	令和6年度の自己評価アンケートで、評価ポイントが1番低い「教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている」を今年度の重点目標とする。	ア. 学校に案内が来た研修について、必要と思われるものについて、教員へアナウンスする。 イ. 教員は、自己の向上を図るため、日常の業務を精査し、研修時間を捻出して、研修に参加することに努める。 ウ. 研修に参加できる教員に限りがあるので、参加した教員が、資料を回覧するだけでなく、研修内容のポイントを解説する機会を設ける。 エ. 教員は、主体的に他教員が参加した研修内容の成果を共有することに努める。	・教員自己評価アンケートのパーセント。 (80ポイント以上) ・教員取り組みアンケートも参考にする。	・教員取り組みアンケート ア. イ. 研修に1回以上参加した教員は60.5%であった。研修に参加しなかった理由としては、校務多忙のためが44.4%、関心のあるものが少なかったが27.8%、案内が少なかったが16.7%、本校実施の研修だけで十分であるが11.1%であった。 ウ. 研修に参加した教員で、関係する人への口頭説明は29.4%、会議での共有が20.6%であった。 エ. 他の教員と共有できた教員は、54.2%で、その中で研修フォルダーに資料を入れたのは23.5%であった。 ・教員自己評価アンケート 昨年度より0.5ポイント下回る74ポイントであった。スクールウェア(情報共有ツール)で研修会の発信を行い、研修フォルダーをパソコン内に作り、研修への参加と共有を呼びかけたが、結果昨年度を少し下回った。参加しない理由としては校務多忙が多く、仕事の効率化が必要とされる。また、研修フォルダーの活用は少なかったが、その他の方法で共有ができていた。次年度はさらに関心の高い研修をアナウンスするなど研修への参加を促していきたい。(△)

評価ポイント と 過去年度との比較

資料②

表①は

評価ポイント

になります。

①

設問	R5	R6	R7	R8	R9
1	86.8	86.8	82.0		
2	71.2	76.5	80.3		
3	76.4	76.5	77.8		
4	76.0	76.0	75.5		
5	78.4	81.6	82.5		
6	76.9	77.0	69.8		
7	82.5	79.1	78.9		
8	80.4	84.0	79.3		
9	85.8	85.7	81.9		
10	80.8	79.5	74.5		
11	82.8	81.1	78.4		
12	76.0	77.5	76.4		
13	76.5	75.5	72.6		
14	80.9	81.5	79.3		
15	74.5	77.0	75.5		
16	87.7	88.0	87.0		
17	90.2	87.5	86.8		
18	92.6	88.5	88.7		
19	79.8	81.9	81.9		
20	76.5	78.4	74.0		
21	75.5	79.9	76.5		
22	73.0	78.4	77.5		
23	72.5	78.4	78.4		
24	90.2	89.4	87.7		
25	75.0	81.5	79.8		
26	78.4	83.3	81.9		
27	80.9	78.9	82.5		
28	78.4	78.9	80.4		
29	78.4	74.5	74.5		
30	78.9	78.4	74.5		
31	83.8	82.5	78.0		
32	76.5	75.5	73.5		
33	76.4	74.5	74.0		
34	86.3	84.8	87.3		
35	91.3	85.3	82.5		
36	91.2	87.3	85.8		
37	87.3	89.2	86.8		
38	81.3	77.5	74.5		

平均	80.7	81.0	79.5		
----	------	------	------	--	--

表②は

前年度からの増減%

になります。

②

設問	R6-R5	R7-R6	R8-R7	R9-R8
1	0.0	-4.8		
2	5.3	3.8		
3	0.1	1.3		
4	0.0	-0.5		
5	3.2	0.9		
6	0.1	-7.2		
7	-3.4	-0.2		
8	3.6	-4.7		
9	-0.1	-3.8		
10	-1.3	-5.0		
11	-1.7	-2.7		
12	1.5	-1.1		
13	-1.0	-2.9		
14	0.6	-2.2		
15	2.5	-1.5		
16	0.3	-1.0		
17	-2.7	-0.7		
18	-4.1	0.2		
19	2.1	0.0		
20	2.0	-4.4		
21	4.4	-3.4		
22	5.4	-0.9		
23	5.9	0.0		
24	-0.8	-1.7		
25	6.5	-1.7		
26	4.9	-1.4		
27	-2.0	3.6		
28	0.5	1.5		
29	-3.9	0.0		
30	-0.5	-3.9		
31	-1.3	-4.5		
32	-1.0	-2.0		
33	-1.9	-0.5		
34	-1.5	2.5		
35	-6.1	-2.8		
36	-3.9	-1.5		
37	2.0	-2.4		
38	-3.8	-3.0		

平均	0.3	-1.5		
----	-----	------	--	--

設問内容は別紙を11ページを参照してください。評価ポイントの計算式は資料③に記載されています。

資料③

番号	設 問	評価ポイント	
		令和 7年度	令和 6年度
目標 1	1 校外活動(修学旅行・校外学習・スキー学舎等)が適切に計画・実施されている	82.0	86.8
	2 生徒会活動が活発に行われている	80.3	76.5
	3 部活動が活発に行われている	77.8	76.5
	4 人権教育が適切に計画・実施されている	75.5	76.0
	5 いじめに対する基本方針に沿い、その取組が適切に実施されている	82.5	81.6
	6 仏教教育・仏教行事が適切に計画・実施されている	69.8	77.0
目標 2	7 教育課程は学習指導要領に沿い、かつ生徒や学校の実態等を踏まえたものになっている	78.9	79.1
	8 効果的で円滑な学習活動を進めるために適切な時間割を編成している	79.3	84.0
	9 年間を通じた教育計画を各教科別に立てている	81.9	85.7
	10 公開授業や研究授業など指導の内容・方法の工夫改善に向けた取り組みが、学校全体で行われている	74.5	79.5
	11 教科内で、授業内容の改善・向上に向けた話し合いを行っている	78.4	81.1
	12 学習状況に応じて生徒を支援する体制が整っている	76.4	77.5
	13 家庭学習時間の確保に向けた取組を行っている	72.6	75.5
	14 授業で、探究活動を実践したり、ICT(情報通信技術)を活用している	79.3	81.5
	15 クラス編成や講習など進路実現に向けた学力向上策が充実している	75.5	77.0
目標 3	16 生徒の進路選択に役立つように状況に応じた必要な情報を提供している	87.0	88.0
	17 進路説明会は、適切に計画・実施されている	86.8	87.5
	18 定期的な懇談・面談などを通じて適切な進路指導がなされている	88.7	88.5
	19 実力考査・外部模試等を進路指導に適切に活用している	81.9	81.9
目標 4	20 校内外の指導等、問題行動を未然に防ぐ教育を適切に行っている	74.0	78.4
	21 生徒の問題に対して情報を共有し、組織的に対応できている	76.5	79.9
	22 社会のルールマナーを順守させている	77.5	78.4
	23 服装規定を守らせている	78.4	78.4
	24 生徒への指導について、保護者への報告が適切になされている	87.7	89.4
	25 遅刻・欠席を少なくさせている	79.8	81.5
	26 挨拶をすることや時間を守る指導などを通して、基本的な生活習慣の確立に努めている	81.9	83.3
	27 環境美化や清掃に対する意識の向上を図っている	82.5	78.9
学校 運営	28 年間を通して生徒自らに健康観察や健康の保持増進できる能力を養わせている	80.4	78.9
	29 職員会議をはじめ各種会議が有効かつ効率的に機能している	74.5	74.5
	30 教員間・教科間の相互理解がなされ、連携して教育活動が行われている	74.5	78.4
	31 学校のホームページを活用し、教育活動や生徒の学校生活について情報公開している	78.0	82.5
	32 研修・研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある	73.5	75.5
	33 教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている	74.0	74.5
	34 防災訓練の実施等、防災に対する意識の高揚を図っている	87.3	84.8
	35 入試説明会などを通して、情報の発信が適切に計画・実施されている	82.5	85.3
	36 ホームページで入試関連行事などの情報発信が適切に計画・実施されている	85.8	87.3
	37 個人情報保護の指針が守られ、個人情報が適切に扱われている	86.8	89.2
	38 職員の生徒募集の意識高揚が図られている	74.5	77.5

表の見方

数字表示は

下記の計算式での評価ポイントが、75未満を示しています。

改善の余地がある項目になります。

*昨年から加重平均で評価ポイントを算出しています。

計算式は以下の通りです。加重平均で4点満点で計算し、それを100点換算するために25倍しています。

計算式：
評価ポイント=(評価1*4+評価2*3+評価3*2+評価4*1)/全サンプル数*25

令和7年度 学校評価

令和8年 7月 1日発行

発行責任者 学校法人 四天王寺学園
四天王寺高等学校
四天王寺東中学校
校長 柏井 誠一

監修 教頭 森 隆

編集 学校評価検討委員会
委員長 今泉 龍朗
委員 中山 栄治 近藤 哲也
矢野 元和